

## プログラム

12月11日(木)

■会長講演 10:00-10:30

「内分泌搅乱物質学会の過去・現在・未来」

鯉淵 典之(日本内分泌搅乱物質学会会長 / 群馬大学)

■実行委員長講演 1 10:30-11:00

「臨床医にとって本学会はどう見えるか?」

久保 和彦(公益社団法人 福岡医療団 千鳥橋病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科)

■実行委員長講演 2 11:00-11:20

「内分泌搅乱物質ビスフェノールの標的受容体研究

- BPA-free から BPA-NI(BPA-Non Intentionally added)の流れのなかで -」

松島 綾美(九州大学大学院理学研究院化学部門)

■一般演題 1 「プラスチック汚染」 11:30-12:30

松島 綾美(九州大学大学院理学研究院化学部門)

01-1 「Nanoplastics and the Developing Brain: Early-Life Oral Exposure and Size-Dependent Accumulation」

○Yang Mi<sup>1</sup>, Tomohiro ITO<sup>1</sup>, Kosuke TANAKA<sup>2</sup>, Fumihiko Maekawa<sup>1</sup>

<sup>1</sup> Health and Environmental Risk Division, National Institute for Environmental Studies, <sup>2</sup> Material Cycles Division, National Institute for Environmental Studies

01-2 「素材やサイズの異なるマイクロプラスチックの生態影響評価」

○兼藤 亮太朗、岡崎 友紀代、鑑迫 典久

愛媛大学大学院農学研究科

01-3 「有機フッ素化合物による胎盤合胞体化・機能搅乱における脱リン酸化阻害剤の効果」

○宮崎 航<sup>1,2</sup>、櫻木 青<sup>1</sup>、宮崎 光江<sup>1, 2</sup>

<sup>1</sup>弘前大学大学院保健学研究科生体検査科学領域

<sup>2</sup>弘前大学大学院保健学研究科生体応答科学研究センター

01-4 「バイオプラスチック添加剤による芳香族炭化水素受容体 (AHR) 活性化能のインシリコ QSAR 予測」

○山根 進太郎<sup>1</sup>, Nurlatifah<sup>2</sup>、中田 晴彦<sup>2</sup>, Nguyen Minh Tue<sup>3</sup>, 国末 達也<sup>3</sup>, 岩田 久人<sup>3</sup>

<sup>1</sup>愛媛大学大学院 理工学研究科、<sup>2</sup>熊本大学 先端科学研究所、

<sup>3</sup>愛媛大学 沿岸環境科学研究所(CMES)

**■一般演題 2 「生物影響」**

14:30-15:30

座長：宮崎 航（弘前大学大学院 保健学研究科）

02-1 「オオミジンコのキトビアーゼ活性は脱皮ホルモン作用のバイオマーカーとして使えか？」

○渡部 春奈、阿部 良子、小田 悠介、山本 裕史

国立環境研究所 環境リスク・健康領域

02-2 「甲状腺刺激ホルモンノックアウトと T4 レスキューによる甲状腺ホルモン依存的生殖能力障害の因果評価」

○明正 大純<sup>1,2</sup>、小林 亨<sup>1,2</sup><sup>1</sup> 静岡県立大学食品栄養科学部学部環境生命科学科、<sup>2</sup> 静岡県立大学院薬食生命学府生態発生遺伝学研究室

02-3 「エピジェネティック毒性から見た生殖発生毒性試験」

○澁谷 徹、堀谷 幸治

環境エピジェネティクス研究所

**■話題提供 15:15-15:30**

「内分泌かく乱物質（環境ホルモン）の「ガン、認知症などへの影響」研究の最近の進歩：新しい化学物質群とそれらの複合汚染」

黒田 洋一郎（環境脳神経科学情報センター）

**■シンポジウム 1 「世界一の安全・安心社会の実現」を目指す未来社会創造事業 15:40-16:40**

座長：田中 宏明（京都大学 / 信州大学）

SY1-1 「健全な社会と人を支える安全安心な水循環系の実現」

田中 宏明（京都大学 / 信州大学）

SY1-2 「下水疫学の社会実装」

井原 賢（高知大学）

SY1-3 「オゾンを用いた薬剤耐性リスク並びに化学物質汚染リスクの低減効果と実装」

西村 文武（京都大学）

SY1-4 「経済的に実現可能な真空紫外線ベースの PFAS 净水処理の可能性」

松下 拓（北海道大学）

12月12日(金)

---

---

■セッション「エコチル調査の現在—研究成果と将来展望」 9:30-10:15  
座長：戸高 恵美子(千葉大学予防医学センター)

S-1 「千葉ユニットセンターの研究より」

山本 緑(千葉大学予防医学センター)

S-2 「宮城ユニットセンターの研究より」

大田 千晴(東北大学大学院医学系研究科発達環境医学分野)

S-3 「高知ユニットセンターの研究より」

安光 ラヴェル 香保子(高知大学)

■シンポジウム2「新興化学物質の環境分析とリスク評価の新展開」 10:25-11:25

座長：国末 達也 (愛媛大学沿岸環境科学研究センター)  
鑓迫 典久 (愛媛大学大学院農学研究科)

SY2-1 「タイヤから溶出する添加剤由来化合物の網羅的スクリーニング」

国末 達也 (愛媛大学沿岸環境科学研究センター)

SY2-2 「新興 PFAS を追う：環境水・野生生物における網羅的スクリーニングと分析課題」

田上 瑠美 (愛媛大学沿岸環境科学研究センター)

SY2-3 「室内の新興化学物質：ヒトやペット動物への影響評価を考える」

水川 葉月(愛媛大学大学院農学研究科環境保全学コース)

SY2-4 「メダカを用いた PFAS のモニタリング調査」

鑓迫 典久 (愛媛大学大学院農学研究科)

■シンポジウム3「人の環境化学物質汚染への医療の現場からの取り組み」 13:25-14:15

座長：久保 和彦(公益社団法人 福岡医療団 千鳥橋病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科)

SY3-1 「大阪ダイキン工場周囲の PFAS 汚染の実態」

大島 民旗(淀川労働者厚生協会 相川診療所 所長(内科医))

SY3-2 「昭島地域における PFAS 汚染と対策」

大山 美宏(健生会 昭島相互診療所 副所長(内科医))

SY3-3 「ポリフアーマシーに対する病院薬剤師の取り組み」

加耒 由彩(福岡医療団 千鳥橋病院 薬剤部科長(薬剤師))

■一般演題3「ヒトへの影響」 14:25-15:25

座長：江口 哲史(千葉大学予防医学センター)

03-1 「ベトナム枯葉剤汚染地における臍帯血液中ホルモン濃度と新生児の先天性代謝異常疾患」

○尾山 木綿子<sup>1</sup>, Khanh Nguyen<sup>2</sup>, Nguyen Thanh Hai<sup>2</sup>, Xuyen Thi Nguyen<sup>3</sup>, Le Thai Anh<sup>2</sup>,  
Nam Duc Vu<sup>3</sup>, Chi Van Vo<sup>4</sup>, 中山 祥嗣<sup>5</sup>,城戸 照彦<sup>6</sup>,溝上 敦<sup>6</sup>,板谷 智也<sup>7</sup>,本間 誠次郎<sup>2,6</sup>

<sup>1</sup>東京純心大学、<sup>2</sup>ベトナム国家大学、<sup>3</sup>ベトナムアカデミー、

<sup>4</sup>フーカット医療センター（ビンデン省）、<sup>5</sup>国立環境研究所、<sup>6</sup>金沢大学、<sup>7</sup>宮崎大学

03-2 「農薬再評価、新規農薬登録におけるリスク評価の課題」

○木村一黒田 純子  
環境脳神経科学情報センター

03-3 「因果推論の科学、反応論、用量反応曲線の適用による自閉症など発達障害児をもたらす主な原因である農薬の特定、無毒性量(NOAEL), 一日摂取許容量(ADI) の算定」

○橋本 正則  
理学博士、MS パフォーマンス研究所

03-4 「複合汚染の現在と今後 — 生殖機能・神経発達・呼吸器疾患への長期的影響を中心に —」

○曾根 秀子<sup>1</sup>、加藤 究<sup>2</sup>

<sup>1</sup>横浜薬科大学大学院薬学研究科、<sup>2</sup>群馬大学情報学部

## プログラム(ポスター)

コアタイム：12月11日(木) 14:00-14:30(奇数)

12月12日(金) 12:55-13:25(偶数)

---

---

P-1 「スナメリの臓器・組織に適用可能なPFAS分析法の確立と組織分布の解析」

○西岡 咲希<sup>1</sup>、田上 瑠美<sup>1</sup>、須之内 朋哉<sup>1</sup>、野見山 桂<sup>1</sup>、落合 真理<sup>2</sup>、田島 木綿子<sup>3</sup>、国末 達也<sup>1</sup>

<sup>1</sup>愛媛大学 先端研究院 沿岸環境科学研究センター、<sup>2</sup>麻布大学 生命・環境科学部、

<sup>3</sup>国立科学博物館

P-2 「Xenopus 幼生を用いた化学物質の甲状腺ホルモン (TH) かく乱活性の in vivo 検出：

エストロゲンによる vtg 誘導は TH 依存性である」

○小林 亨<sup>1</sup>、杉島 友美<sup>1</sup>、熊倉 雅彦<sup>2</sup>、明正 大純<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 静岡県立大学環境生命、<sup>2</sup>日本歯科大学新潟生命歯学部解剖第2

P-3 「オオミジンコを用いる抗幼若ホルモン (JH) 作用スクリーニング試験法の開発：

JH受容体結合阻害剤及び JH 生合成阻害剤の検出に向けた検討」

○小田 悠介<sup>1</sup>、渡部 春奈<sup>1</sup>、酒井 琴和<sup>2</sup>、石川 英律<sup>2</sup>、山本 裕史<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 国立環境研究所 環境リスク・健康領域、<sup>2</sup>いであ株式会社

P-4 「ゼブラフィッシュ胚を用いたPFOA代替物質(HFPO-DA, HFPO-TA, HFPO-TeA)の甲状腺ホルモンへの影響評価」

○山本 愛依<sup>1</sup>、田上 瑠美<sup>1</sup>、久保田 彰<sup>2</sup>、国末 達也<sup>1</sup>、野見山 桂

<sup>1</sup>愛媛大学先端研究院沿岸環境化学研究センター、<sup>2</sup>帯広畜産大学グローバルアグロメディシン研究センター

P-5 「ゼebraフィッシュ胚を用いた内分泌かく乱作用マルチスクリーニング法の確立」

○久保田 彰<sup>1</sup>、繩司 燐<sup>2</sup>

<sup>1</sup>帯広畜産大学獣医学研究部門、<sup>2</sup>化学物質評価研究機構

P-6 「感熱紙顕色剤・増感剤がヒト乳がん細胞に及ぼす影響」

○久留戸 涼子<sup>1</sup>、阿部 真大<sup>1</sup>、山田 建太<sup>2</sup>

<sup>1</sup>常葉大学教育学部、<sup>2</sup>常葉大学社会環境学部

P-7 「柑橘フラボノイド・タンゲレチンによるAhR活性化の抑制作用」

○平野 将司<sup>1</sup>、野口 七海<sup>1</sup>、宮坂 雄暉<sup>2</sup>、古村 韶<sup>2</sup>、石橋 弘志<sup>3</sup>

<sup>1</sup>東海大学農学部、<sup>2</sup>東海大学大学院農学研究科、<sup>3</sup>愛媛大学大学院農学研究科

P-8 「神経毒性の共通Key eventへの作用を評価するための in vitro アッセイ系の構築と現行農薬類の複合影響評価への応用」

○平野 哲史<sup>1</sup>、池中 良徳<sup>2</sup>、星 信彦<sup>3</sup>、田渕 圭章<sup>1</sup>

<sup>1</sup>富山大学 研究推進機構 生命科学先端研究支援ユニット、

<sup>2</sup>北海道大学 One Health リサーチセンター、

<sup>3</sup>神戸大学大学院 農学研究科 応用動物学講座 動物分子形態学分野

- P-9 「内分泌搅乱物質スクリーニングのための高感度アンドロゲン受容体活性評価系」  
○金崎 康平<sup>1</sup>、中村 圭太<sup>1</sup>、小野原 永遠<sup>1</sup>、梶山 尊<sup>1</sup>、荒巻 光汰<sup>1</sup>、松島 紗美<sup>1,2</sup>  
<sup>1</sup>九州大学大学院理学府化学専攻、<sup>2</sup>九州大学大学院理学研究院化学部門
- P-10 「卵巣摘出マウスの子宮肥大試験を用いた 12 化合物の内分泌かく乱作用のスクリーニング評価」  
○五十嵐 智女<sup>1</sup>、横田 理<sup>1</sup>、相田 麻子<sup>1</sup>、西村 拓也<sup>1</sup>、北嶋 聰<sup>2</sup>、山田 隆志<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター 毒性部、  
<sup>2</sup>国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター 安全性予測評価部
- P-11 「イミダクロプリドが海産甲殻類アミ *Americamysis bahia* の繁殖に及ぼす影響評価」  
○池上 歩希<sup>1</sup>、内田 雅也<sup>1</sup>、平野 将司<sup>2</sup>、富永 伸明<sup>1</sup>、有薗 幸司<sup>3</sup>、石橋 弘志<sup>4</sup>  
<sup>1</sup>有明工業高等専門学校創造工学科、<sup>2</sup>東海大農学部食生命科学科、<sup>3</sup>熊本大学薬学教育部、  
<sup>4</sup>愛媛大学大学院農学研究科
- P-12 「ミナミメダカ繁殖機能に及ぼすヒト医薬品（抗うつ薬・抗精神病薬）の複合曝露影響」  
猿渡 侑司<sup>1</sup>、高濱 要資<sup>1</sup>、山下 紗乃<sup>2</sup>、中田 典秀<sup>3</sup>、井原 賢<sup>4</sup>、蓮平 裕次<sup>4</sup>、  
宮川 信一<sup>5</sup>、天谷 貴史<sup>6</sup>、村田 良介<sup>6</sup>、征矢野 清<sup>6</sup>、○長江 真樹<sup>1</sup>  
<sup>1</sup>長崎大学総合生産科学研究科、<sup>2</sup>長崎大学環境科学部、<sup>3</sup>神奈川大学化学生命学部、  
<sup>4</sup>高知大学教育研究部自然科学系農学部門、<sup>5</sup>東京理科大学先進工学部、<sup>6</sup>長崎大学海洋未来イノベーション機構
- P-13 「メチルフェニデート曝露によるミナミメダカ胚発生および仔魚行動への影響評価」  
立岡 紗奈、○蓮平 裕次  
高知大学農林海洋科学部
- P-14 「環境医薬品によるメダカの脳の神経活動への影響」  
○大泉 貴絵、宮川 信一  
東京理科大学大学院 先進工学研究科
- P-15 「3-methyl-4-nitrophenol (MNP) の幼若期曝露が雌ラットの春機発動及び性特異的行動に及ぼす影響」  
○前田 侑輝拓<sup>1</sup>、金丸 嘉<sup>2</sup>、堤 恋結、武藤 里加子<sup>2</sup>、江口 凜<sup>2</sup>、竹田 桜瑛<sup>2</sup>、渡辺 元<sup>3</sup>、  
近藤 保彦<sup>4</sup>、柳澤 利枝<sup>5</sup>、宇田川 理<sup>5</sup>、川口 真以子<sup>1,2</sup>  
<sup>1</sup>明治大学大学院 農学研究科、<sup>2</sup>明治大学 農学部、<sup>3</sup>明治大学 研究・知財戦略機構(OSRI)、  
<sup>4</sup>帝京科学大学 生命環境学部、<sup>5</sup>国立環境研究所 環境リスク・健康領域
- P-16 「 $\alpha$ -ナフトフラボン曝露は妊娠マウスで巣作り“速度”を低下させるのか？」  
○村田 信喜、杉田 和俊、吉岡 亘  
麻布大学獣医学部
- P-17 「ポリネーター保護と農薬評価制度：ミツバチ・野生ハナバチへの影響の現状と課題」  
○遠山 千春  
東京大学、環境健康科学技術国際コンサルティング
- P-18 「メダカにおける TRIAC とエストロゲン共曝露が脊椎骨形成に及ぼす影響」  
明正 大純<sup>1,2</sup>、○岡部 佑太<sup>1</sup>、小林 亨<sup>1,2</sup>  
<sup>1</sup>静岡県立大学食品栄養科学部学部環境生命科学科、  
<sup>2</sup>静岡県立大学大学院薬食生命学府生態発生遺伝学研究室

P-19 「内分泌搅乱作用に関与するメダカエストロゲン受容体サブタイプの同定」

○清水 豊花、室田 修平、中島 啓、宮川 信一

東京理科大学大学院 先進工学研究科

P-20 「新生仔期 DES曝露によるマウス生殖器官へのDNAメチル化解析」

○松橋 愛理、山崎 翔、宮川 信一

東京理科大学大学院 先進工学研究科

P-21 「妊娠中のカドミウム曝露が子どもの発達に与える影響：エコチル調査より」

○増本 年男<sup>1</sup>、天野 宏紀<sup>1</sup>、大谷 真二<sup>1</sup>、上島 通浩<sup>2</sup>、山崎 新<sup>3</sup>、小林 弥生<sup>3</sup>、  
黒沢 洋一<sup>1</sup>

<sup>1</sup>鳥取大学医学部、<sup>2</sup>名古屋市立大学 大学院医学研究科、

<sup>3</sup>国立環境研究所 環境リスク・健康領域

P-22 「妊娠中の室内化学物質複合曝露が子どもの出生時体格に及ぼす影響」

高口 健暉<sup>1</sup>、○江口 哲史<sup>1</sup>、川島 孝行<sup>2</sup>、鈴木 規道<sup>1</sup>

<sup>1</sup>千葉大学予防医学センター、<sup>2</sup>東京科学大学情報理工学院